

キャラクター名
碓氷 仁炉

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ サラマンダー		ワークス	中学生	カヴァー	中学生
	オプション		年齢	14	性別	男
覚醒	素体	衝動	妄想	初期侵食率	35 %	
出自	兄弟	経験	実験体	邂逅	ビジネスパートナー	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	47
肉体	5	0	3	1	4	13	行動値	3
感覚	0	1	0			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正									
白兵			射撃			RC	5		交渉		
回避	1		知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
炎陽柱【スピキュール】		4r	0	9		100%以下
紅炎陣【プロミネンス】		10r	0	37		100%以上

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 噂好きの友人	
コネ: 情報屋	
コネ: ハッカー	
コネ: 要人への貸し	
メモリー: チェーン	
エンブレム黒のIDカード	
エンブレム	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
ロイス: 実験体	ロストナンバー	N		
	FH研究員	P 好奇心	N 憎悪	
	神城早月	P 信頼	N 不安	
	無良恭子	P 庇護	N 不安	
		P 尊敬	N 嫉妬	
		P 誠意	N 隔意	
		P 庇護	N 不安	

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト: サラマンダー	2	2	メジャー	-	-	自動	-	
効果: クリティカル値を-Lvする(最低値7)								
災厄の炎	4	4	メジャー	至近	範囲(選択)	対決	-	
効果: 攻撃力+Lv×3の射撃攻撃								
魔獣の本能	1	2	メジャー/リアクション	-	-	自動	-	
効果: このエフェクトを組み合わせた判定は【肉体】で判定を行える								
氷の回廊	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 飛行状態で戦闘移動を行う。その際、移動距離を+Lv×2mする。								
完全獣化	2	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: このシーンの間、【肉体】の能力値を使用したあらゆる判定のダイスをLv+2個する。ただし、このエフェクトが持続している間、素手を除くアイテムを装備することができない。								
終末の炎	2	2	マイナー	至近	自身	自動	80↑	
効果: Lv×5点までのHPを消費し、消費した分攻撃力が上がる								
プラズマキャノン	2	4	メジャー		単体	対決	100↑	
効果: Lv×5攻撃力の増加								
メモリー	1							
効果: 取得欄なかったので、こちらに記録。詳細はアイテム欄まで								
獣の魂	1	5	オート	至近	自身	自動	100↑	
効果: D+5 Lv回数のみ								
熱感知知覚	1							
効果: 暗闇の中でも熱を追える。体温の変化から感情や体調の変化も読み取れる。必要であればRC判定。								
不燃体	1							
効果: 通常の炎や寒さからダメージを受けない								
眠れる遺伝子	1							
効果: 貴方の内側に眠っている獣の遺伝子を覚醒させることで、常に動物の姿で日常を過ごすエフェクト。ただし、その機能が備わるわけではない。								
体型維持	★							
効果:								

碓氷 仁炉 (ウシジマ) コードネーム: 紅炎(こうえん)の橙赤狼(とうせきろう)【プロミネンスウルフ】 実験体の名:106番

気がついたらFHの施設にいた。いつから実験体になったのかは覚えていない。ただひたすら繰り返される実験の苦痛を耐え、非人道的な行いをする研究員を憎みながら、毎日を生きていた。

そういう生活を耐えられたのも、実験体「106番」には心の支えとなっていた人物が二人いたからだ。それぞれの名は「89番」と「135番」である。血の繋がりがどうか分からない。しかし、なぜかこの二人とは意気投合でき、血の繋がりがあろうがなからうが、【兄弟】と呼ぶに相応しい存在だった。

ある日、その関係が崩れる事件が起きる。「殺し合え。」FHの研究員たちによって暴走業が投与され、気がついたら実験体同士での殺し合いが起きた。

自分の意識はあったが、自分で自分の身体をコントロールすることはできなかった。別人が他の実験体を焼き殺しまわっているのを、ただ眺めているような感じであった。数時間が経ち、生き残っていたのは自分を含め3人だった。89番と135番である。

他の実験体を殺しても、特に何も思わなかった。しかし、この二人と対峙した時、初めて人を殺したくないと思った。嫌だ。殺したくない。殺さないでくれ。この二人だけは。しかし、身体は言うことを聞かない。